

# 令和7年度 仕事と子育て両立体験事業 開催報告書

大学生などの若い世代に対して、県内企業等での就業体験と、その企業で働く子育て家庭を訪問する家庭体験の、「仕事と子育ての両立」を体験的に学ぶ機会を通じて、自らのライフデザインを考えるきっかけを提供し、香川県での就職、結婚や子育てを前向きに考えられる機運を醸成する事業です。

## インターンシップ&家庭体験プログラム

事前研修

インターンシップ&家庭体験

事後研修

報告会

01

02

03

04

## インターンシップ&家庭体験受入企業・法人

カトーレック株式会社

セトラスホールディングス株式会社

四国計測工業株式会社

株式会社フソウリブテック

勇心酒造株式会社

学校法人 倉田学園

大手前高松中学・高等学校

## 01 事前研修

R7.8.3(日)

10:00~15:30

@高松市ヨット競技場

参加学生:延べ10名

受入家庭:5組13名



参加学生と受入家庭、初対面の参加者同士が自己紹介を行い、学生からは、事業に参加する意気込みとして「人生設計に活かしたい」「成功例となり後輩に良い流れを作りたい」といった前向きな発言が聞かれました。受入社員・職員は、業務内容ややりがい、家庭との両立について語り、学生も将来の希望やインターンで学びたいことを具体的に共有しました。

午前は、学生と受入家庭といっしょに、妊娠・出産・産後期に起こりうる、さまざまな出来事や心の動きをシミュレーションできるすごろく形式のボードゲーム“サンゴクエスト”を実施しました。受入家庭から、当時の心情を思い出して伝えると、学生からは、「妊娠や出産のリアルを知ることが出来て貴重な経験となった。」、「夫婦それぞれ寄り添いながらコミュニケーションを取ることが大事だと知った。」といった感想が聞かれました。

また、昼食時には受入家庭のお子さまとの交流も行い、学生と家庭の距離が縮まりました。

午後は、学生を対象に「働くこと」「子育て」「両立」について考えるワークショップを行い、理想の働き方や家庭像を改めて考え、語ってもらいました。さらに、15年後の自分を想像する“タイムマシンワーク”を通じて、将来のライフデザインを描き、インターンシップで学びたいことや受入家庭に聞きたいことをリストアップし、次のプログラムである“インターンシップ&家庭体験”へ向けて意識を高める時間となりました。結婚や子育てへの考え方は多様で、互いの価値観に共感しながら語り合う姿が印象的でした。



## 02 インターンシップ&家庭体験

各企業の1DAYインターンシップに、  
1企業・学生2名をベースに参加  
インターンシップ終了後に受入社員・職員の  
家庭に訪問し、子育て家庭の日常を体験

02

各企業の1DAYインターンシップに参加した後、2～3時間程度受入社員・職員様のお宅で子育て家庭の日常を体験をさせていただきました。

インターンシップでは、学生たちは実際に職場で働く受入社員・職員の姿を間近で見て、仕事に真剣に向き合う姿勢や、チームとの連携、業務に対する情熱に強く感銘を受けていました。学生にとって将来の職業選択に影響を与える貴重な体験となりました。



家庭体験では、学生たちは受入社員・職員の職場での真剣な表情とは対照的に、家族と過ごす時間の中で見せる柔らかな笑顔や穏やかな語り口に触れ、仕事とは異なる一面に温かさを感じていました。夕食の準備やこどもとの遊びの時間、家族との何気ない会話の中で、家族に向けるまなざしや言葉の選び方に、深い愛情と信頼関係がにじみ出ており、学生は「家庭の中での時間がこんなにも心を満たすものなのか」と驚きと感動を覚えたようです。また、受入家庭のこどもとふれあう場面では、学生がいっしょに遊んだり話しかけたりする中で、こどもが見せる純粋な笑顔や無邪気な反応に心を動かされ、「こどもって、本当にかけがえのない存在だ」と実感する様子が見られました。

この体験を通じて、学生たちは“働く人”としての顔だけでなく、“家族の一員”としての姿を知ること、仕事と家庭の両立がもたらす豊かさや、人生の多様な価値を肌で感じることができました。

### 受入家庭からの感想や印象に残ったこと



- ・「家庭を持つのが楽しみのになった」と言ってくれたことが印象に残った。体験を通して学生がどう感じるか不安もあったが、この一言で受け入れてよかったなと思えた。
- ・改めて、「私たち夫婦ってこうだね」、「昔はこんなこともあったね」と考えることができた良い機会だった。学生たちが興味を持ってたくさん質問してくれてうれしかった。

・こどもとふれあうことで、家庭を持ち、こどもがいる状態で仕事を回していくことの大変さだけでなく、充実さも感じてもらったのかなと思う。

・「いろんな家族の形があって、正解はない。夫婦や、時にはこどもたちも交えて『我が家の正解』を探し続けるのが楽しい!」ということが伝わったらいいなと思う。





## 03 事後研修

R7.9.28(日)

10:00~12:00

@わははネット3F

参加学生:7名

市町担当職員:4名



学生が家庭体験を振り返り、他者と共有することで気づきを深め、最終報告会に向けた準備を行いました。学生の体験後のオンラインでのインタビューを元に制作した全てのグループのイラストレポートを読み、ポストイットで「質問(青)」「共感(ピンク)」「気づき(黄)」を色分けして記入することで、より考えが深まった様子でした。

それぞれの体験を全体で共有するために、各グループ5分の持ち時間で、学生が一言で「自分にとっての家庭体験とは？」をテーマに、実際にこどもを育てながら仕事をしている方々のリアルな声を聞き、生活を見たことで気付いたことや感じたことを熱量のこもった声で発表しました。



それらを踏まえ、改めて体験の振り返りを話し合い、学生たちは、「母への感謝」や「将来への希望」など、実際の家庭の姿から深い学びを得ており、夫婦の役割分担や連携、コミュニケーションの重要性、多様な家庭の在り方への理解が共有されるとともに、職場環境の重要性、就職時の福利厚生への関心が高まったことが伺えました。

最後に、報告会へ向けてグループごとに発表内容や役割分担を話し合い、迷いながらも前向きに準備を進める姿が印象的でした



## 04 報告会

R7.10.13(祝月)

10:00~12:00

@高松市ヨット競技場

参加者:58名



参加学生や受入家庭に限らず、本事業での気づきや学びを広める目的で、一般募集を行い、58名の方にご参加いただきました。また、1グループのインターンシップ&家庭体験に密着して動画を制作したYouTuber瀬戸内サニーさんがコーディネーターとして登壇しました。

学生からは、育児休業制度や支援体制を初めて知ったことへの驚きや、こどもとの関わりから得た学び、夫婦間の協力の大切さに感銘を受けたとの声が寄せられ、受入家庭からは、自身の子育てや夫婦の在り方を見直すきっかけになったとの感想が聞かれました。



また、仕事と子育ての両立における時間的制約や葛藤についての本音も共有され、リアルな姿が浮き彫りとなりました。

会場では、学生と家庭の密着動画やイラストレポートが公開され、参加者は視覚的に体験の様子を感じ取ることができました。

家族の形は様々であり、一人ひとりが自分の価値観を大切にしながら、望む生き方やライフデザインを自由に選べるようになってきています。本事業を通して、学生の皆さんが「自分らしく生きてどういうことだろう?」と考えるきっかけになったのではないかと思います。

### 参加者からの感想や印象に残ったこと

- ・少子化対策、結婚観、地元就職など、いろんな課題を解決する一つの方法だと思った。100人100とおりのロールモデルの一つを学生が知ることができる取り組みだと思った。
- ・学生にとっても受入家庭にとってもよい体験になったことがよく分かった。将来のイメージを具体的に持てる機会を若い時期に経験することはとても大切だと思った。
- ・夫婦の価値観を刷り合わせて自分たちなりの形を作る様子が印象的だった。忙しさと苦勞の中でも仕事と育児の両立に楽しさを見出すことができるのは素敵だと思う。もっとたくさんの若い人たちに体験してほしいと思った。
- ・「働きやすさ」は民間企業もかなり充実してきている。県内に魅力的な企業は多いので、多くの学生に知ってもらい機会を創出することが大事だと思う。



## プログラム参加学生からの感想や印象に残ったこと



いろいろな生活サイクルがあると知ることができた。定時に帰れることも、遅くまで働くこともあるだろうからこそ、働く環境を選ぶことも大切だと思った。子育ても両立しつつ、好きな仕事をするにはどうしたらいいだろう、とより具体的に考える機会になった。

こどもたちとのふれあいを通じて、「家に帰ったらこんなご褒美が待っているんだ」と思うことができた。夫婦間でこどもの成長を共感できるのは、すごくいいなと感じた。



今まで以上に、仕事と家庭が隣り合っていることを実感できた。仕事と家庭をひとつの人生の中で、分けずに、まとめて見つめること、別々じゃなくて両立が生きることなんだなと気付くことができた。

職場によって違いがあることがわかり、環境や制度が違えば、「働き方」も違ってくる。その中で、その家庭に合った暮らし方を、パートナーと話し合いながら築いていく必要があるんだなあと感じた。



理想が現実近づいた。仕事と子育てを両立するためには、「なんとかなる」ではなく、きちんと両立できる環境を整えることが大切だとわかった。また、日頃から夫婦で尊重し合い、コミュニケーションをとることが大事だと思った。

1+1=2じゃなく、3にも4にもなり得ると感じた。お互いの得意・不得意、仕事の忙しさなどで、役割を調整したり、夫婦で協力して、お互いを頼りながら、自分なりの家庭を築きたいと思った。



「自己満足じゃない満足感」という言葉が一番印象に残った。仕事でも子育てでも大切だなと思った。

役割分担を決めておくことは大事だと思った。夫婦で得意なことや苦手なこと、仕事で疲れているときなど、いろいろな要因で子育てが重荷に感じてしまうこともあるかもしれない中で、協力しながら、時には「今日は自分がするよ」というように、お互いに相手のためにように行動できるとことが大切だと思った。

